

⑨日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公開

⑫公開特許公報(A)

昭54—53431

⑪Int. Cl.²
B 60 R 21/12識別記号 ⑬日本分類
80 K 0庁内整理番号 ⑭公開 昭和54年(1979)4月26日
6839—3D発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑮三重エア—バック

東京都渋谷区広尾1丁目5番3
号 豊島アパートメント1階

⑯特 願 昭52—117930

⑰出 願 人 真下万寿一

⑱出 願 昭52(1977)10月3日

東京都渋谷区広尾1丁目5番3
号豊島アパートメント1階

⑲発 明 者 真下万寿一

明 細 書

1. 発明の名称 三重エア—バック

2. 特許請求の範囲

空気不透過性、かつ可撓性で円筒形な二重エア—バック(1)を螺旋状に形成し、該形成するに外側シート側面(9)(9')を接着し螺旋状内、本体中に内空洞(6)を設け、二重エア—バックの内空洞(4)と大気の流通を行ふ弁(3)(3')(3'')を外側シートの外周隙置に複数個取り付け付け、更に空気袋の二重エア—バック(1)の両側面(10)(10')に逆止弁(7)(7')を取り付けた三重エア—バック。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、空気袋二重エア—バックに係わり、かつ新規に改良した空気袋に係わる。

本発明は、二重エア—バックの構造を改良し、寄大なる空気袋を脹らすのに時間、労力を減少した三重エア—バックを提供する。

更に本発明は、衝撃緩衝と耐久性ある構造を有し、安価に製造し得る三重エア—バックを提供する。

次に本発明の構成を説明すれば、

空気不透過性、かつ可撓性で円筒形な二重エア—バック(1)を螺旋状に形成し獨ると共に二重エア—バック(1)の側面(9)(9')を複数接着し、球又は円筒形の空気袋本体を得るものであり、この本体中に内空洞(6)を設ける。

更に該本体の両側面(10)(10')に逆止弁(7)(7')を取り付ける。

又外側シートの外周に内空洞(4)と大気との流通を行ふ弁(3)(3')(3'')を隙置に複数個取り付け

3.

この場合、弁(3)(3)(3)は前出願の二重エアークの逆止弁と同様の置位であるが、内外への開閉が自在である。

上述の如く構成から実装について説明すれば、二重エアーク(1)のバルブ(6)から既知のポンプ又はポンベ等により、外周空洞(2)(2)に空気を注入し充滿せると共に、弁(3)(3)(3)から大気を内空洞(4)に流入し得ると、内空洞(4)も逆止弁(7)(7)から大気を流入し、かつ脹らむものである。

本発明は、前記の如く二重エアークを改良し、省大なる空気袋を脹らますに時間と労力と空気を節約したものである。

又外部からの押圧による衝撃でも、内空洞(4)の空気が弁(3)(3)(3)から流出する為、緩衝室になり、衝撃を防止する物の安全確保の運搬に最適で、耐久性ある構造を有している。

7. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明の第2図の側断面図で、第2図は、本発明の正面図で、第3図は、第2図の本発明の側面図で、第4図は、本発明の根斜図である。

- 1 - - - - - 二重エアーク
- 2 - - - - - 外周空洞
- 3 - - - - - 弁
- 4 - - - - - 内空洞
- 5 - - - - - 圧着部
- 6 - - - - - 内内空洞
- 7 - - - - - 逆止弁
- 8 - - - - - バルブ
- 9 - - - - - 側面
- 10 - - - - - 両側面

